

2018年(平成30年)6月30日(土) NO 123号

K-PURO NEWS

【事業所】

◆	社名	株式会社 ケイプロ	http://www.k-puro.co.jp
◆	商号	都市防犯プランニング社	mail info@k-puro.co.jp
◆	本社	埼玉県蕨市中央 1-7-1 シティタワー蕨	TEL 048-446-9445
◆	千葉支店	千葉県千葉市中央区新町 1-20 江澤ビル	TEL 043-243-6110

【業務内容】



機械警備事業	弊社独自のセキュリティプランニングに SECOM・ALSOK・CSP のインフラを使用
防犯カメラ事業	周辺環境・建物構造・人的要因・犯罪データを分析し有効かつ適正な位置へ設置
メンテナンス事業	消防設備点検・工事から AED 幹旋に至るまでのメンテナンス業務の取扱い

【加盟団体】



RID2770	川口モーニングロータリークラブ	http://kawaguchi-morning.jp/
NPO 法人	さいたま起業家協議会	http://www.saitama-kk.org/
公益社団法人	千葉東法人会	http://www.chibahojin.jp/
一般社団法人	千葉市中央区倫理法人会	http://www.rinri-chiba.org/
公益財団法人	モラロジー研究所	http://www.moralogy.jp/

【応援団体・企業】



今月の言葉



親は子に、自分の親の思い出、つまり子供にとって祖父母のことを話してみましよう。

祖父母が健在であれば、ふれあう機会を持つことも大切です。

子供は祖父母の存在を意識することで、祖父母から父母へ、

父母から自分へと伝わる命のつながりを感じて、自分の命の尊さも実感するのです。

私たちは親先祖との命のつながりをはじめ、多くの人々とのさまざまなつながりの中で生きています。

そうした絆を強めていくことは、私たちが孤独から救うだけでなく、「生きる力」を育むことにもつながるのではないのでしょうか。

今月の良い話 なぜ生産性は上がらないのか

東京では誰もが先を急ぎます。
エスカレーターでは立ち止まらず、ドアが閉まりかけた電車に躊躇なく飛び乗る。
なぜ、それほどまで急いでいるのでしょうか。
アポイントに遅れそうだから、あるいは1秒も無駄にしたくないから。
横にいた初老の男性が、待ちきれなくて赤信号を渡る。3秒後に信号は青に変わる。
5歩ほど先を行くその人に、私は聞いてみたい。その5歩にどういう意味があるのかを。
停止することができない。無駄な時間が耐えられない。
それは効率を重んじているからでしょうか。

.....
だとしたら、なぜこの国の生産性はこれほどまでに低いのでしょうか。
1秒たりとも立ち止まらず前に進み続けた結果、生産性が下がる。なんと皮肉なことでしょう。
これは社員だけの話ではありません。
経営者も、とにかく急ぎます。彼らは決して立ち止まらない。
でもそれは時間を無駄にすまいと考えているからではないのです。
考えた結果急いでいるのではなく、考えるまでもなく彼らは急いで



いる。
どういう時間が無駄で、どういう時間が無駄ではないのか。
そんなことを考える時間が、そもそも無駄だから。
それは完全な思考停止状態。もちろん、本人は否定するでしょう。
何も考えてない奴らが、ダラダラと無駄な時間を過ごすのだ。
考えるまでもなく、俺たちは考えている、と。

.....
とにかく急ぐ。とにかく働く。とにかく目の前の仕事をこなす。
これで生産性が上がる方が不思議です。考えるとは立ち止まることです。
道に迷ったとき、走りながら地図を見るひとはいません。
まず立ち止まって、自分の位置を確かめる。
立ち止まらないのは迷っているという自覚のない人。自覚なく前進を続け、間違ったゴール
にたどり着くのです。

.....
仕事が苛酷になり、労働時間が延び、報酬は下がる。社員は頑張っているのに、会社の利益
は増えない。それは、なぜでしょう。景気が悪いから、政治家が無能だから。
いやそうではありません。なぜ、そうなってしまうのかを、考えていないからです。
人が採れない原因を考えることなく、求人広告を出し続ける。
売れない原因を考えることなく、営業マンを走らせ続ける。
だから、給料は増えず、会社は儲からず、この国の生産性は上がらないのです。

////////////////////////////////////

元ワイキューブ社長（現ブランドファーマーズ・インク代表） 安田 佳生
記事提供 日経トップリーダー

今月の良い話 社員の一言

2003年4月、24歳で創業しました。
最初は妻と2人で大豆の胚芽成分を濃縮させたサプリメントやおからクッキーなどを扱う通販会社を立ち上げたものの、鳴かず飛ばず。
いよいよ生活に困窮し始めたとき、会社の救世主になってくれたのが04年1月に発表したダイエット食品の「豆乳クッキーダイエット」です。
豆乳クッキーダイエットの売上は面白いように伸びていきました。
発売1年目は2400万円、2年目は8億9000万円、3年目は24億円。4年目には100億円を達成。通販会社で成長率1位、2位を走り、それこそ飛ぶ鳥を落とす勢いでした。
ここまで来たら売上300億円を目指そうと、翌年広告宣伝費に69億円をつぎ込みました。



ところがその矢先、豆乳クッキーダイエットがパタリと売れなくなったのです。
原因は、エクササイズDVD「ビリーズブートキャンプ」という大ヒット商品が出たことと、豆乳クッキーダイエットの類似商品がどんどん出てきたことです。
当時、売り上げは10億円まで落ち込み、1年で4トントラック50台分、200トンの商品を廃棄しました。億単位の損失です。
周りから人がさーっと引いていきました。毎日のように銀行とリスク交渉をし、社員も3分の1に減りました。お金も尽きてしまい、本当に厳しかった。

そんなある朝、社員2人が僕に話があるというのです。
「会社を辞めたいと言われるのだろうな」と覚悟していたら、全く違った。
いつも口数の少ない彼らが僕を目をまっすぐ見て「幹部がみんな辞めてしまい、残ったのは僕たち若手ばかり。頼りないと思いますが、社長のことを一生懸命支えますから」と言ってくれたのです。
その言葉を聞いたときに、「自分はなんてばかなのか」と思いました。
これから育とうとしている彼らを信じ切れなかった自分が、恥ずかしくてたまらなかった。
そんなふうに自分を支えてくれる人が身近にいることは、心強くもありました。

この社員2人を中心に再度奮起し、洗顔料「どろあわわ」など新たなヒット商品を生み出しました。僕が引っ張ったわけではなく、社員全員が一丸となって作った商品です。
2年ほどの苦しい時期を経て、会社は変わっていきました。
その結果、今のライザップがあります。
人は変わる、人にはすごい力がある。僕はそう確信しています。

////////////////////////////////////
RIZAPグループ社長 瀬戸 健 記事提供 日経トップリーダー

事件ファイル NO123 段ボール製イス

先日ラジオで段ボール製のイスの紹介をしていました。こういう物があることを知らず調べてみましたが、色々な商品が出ています。軽くて持ち運びにも便利。

行列待ちや釣り、屋外での BBQ、万が一の被災時のためにも家族分備えておくの良いかもしれません。価格は 2 個セットで 2,360 円（税込み）。



プロ太の小話集 NO123 『 補聴器 』

男が補聴器を買いに来た。

「どんなのがあるかい？」

「ピンキリですよ。200 円のもあれば、20 万円のもあります。」

「200 円のやつを見せてもらおうか。」

店員はその製品を客の首周りにつけて説明した。

「こちらのボタンを耳に装着して、この細ヒモをポケットまで垂らすんです。」

「そんなんでも補聴器になるんかいな？」

店員は言った。「200 円ですからねえ、性能はゼロです。とはいえ、これを身に付けていれば、みなさん大声で声をかけてくれますよ。」



今月の K-PURO ニュースいかがでしたか？
内記事は二人のベンチャー社長の話を取り上げました。
時代の寵児ともてはやされた元ワイキューブの安田氏と現在急成長している RAIZAP の瀬戸氏。お二人に共通していることはともに大きな挫折を経験していること。困難を乗り越えた経営者の心棒は力強さを感じさせます。

巻頭には家系のつながりの大切さを掲載しました。
私の曾祖父（祖父の父）は北海道北東のサロマ湖周辺を中心に開拓した屯田兵でした。
開拓した地域や雑木林を開拓するのに使用した工具の紹介、ハッカの作り方や血統の良い馬を育てていたことなどが大伯父（祖父の兄）が残した文献に記述されています。
先日念願であったこの先祖が開拓した地域を妻と 2 人で行ってきました。
サロマ湖の夕日をここから眺めていたとみられる場所に 2 人で立ち、同じ景色を眺め、同じ空気を吸い、同じ季節の温度を感じる、なにか先祖と心と体が一体となる至福な時間を過ごすことができました。妻を紹介することもでき、先祖もきっと喜んでくれたでしょう。

注：プロ太とは、写真の K-PURO 番犬です（体長 10 メートル・体重 1 トン・無敵無敗）